日本におけるポリティカル・コレクトネス（PC）意識に関する研究

加藤　真人[1]・川端　祐一郎[2]・藤井　聡[3]

[1]学生会員　京都大学大学院　都市社会工学専攻（〒615-8540 京都府京都市西京区京都大学桂4）
E-mail:katou.masato.45n@st.kyoto-u.ac.jp

[2]正会員　京都大学助教　大学院工学研究科（〒615-8540 京都府京都市西京区京都大学桂4）
E-mail:kawabata.yuichiro.8x@kyoto-u.ac.jp

[3]正会員　京都大学教授　大学院工学研究科（〒615-8540 京都府京都市西京区京都大学桂4）
E-mail:fujii@trans.kuciv.kyoto-u.ac.jp

土木計画や公共政策には，言論の自由が保障された条件の下で弁証法的議論が繰り返される必要があるが，これらを侵害する恐れのある社会心理現象を指す概念に「ポリティカル・コレクトネス（PC）」が挙げられる．本研究ではPCを「“原則的には必ずしも正しくはないが，時世上は正当である”と社会的に認識されている，他人に押し付けることを前提として用いられる価値規準」と定義し，その基本的特徴を把握するためのアンケート調査を実施した．

分析の結果，「論理・抽象性を志向する人」「傲慢で自己解放的な人」「正当世界信念の強い人」「自己の価値規準を明確に持たない人」ほどPC度が高いこと，高学歴（大卒以上）ほどPC度が低いことが示唆され，また収入によるPC度の差は認められなかった．

Key Words : *political correctness, empirical research*

1.　研究の背景と目的

土木とは，土木施設の整備と運用を通じて，「我々の社会をより良い社会へと少しずつ改善」していこうとする社会的営みであり，このような営みを行うためには，「よい社会とは何か」について弁証法的議論を繰り返すことが必要である[1]．また，法律や制度の整備・改訂を通じて社会をより良い方向へ導こうとする公共政策においても同様に，弁証法的議論が行われる必要があると考えられる．藤井は，「良き社会」を考えるうえでは，この弁証法的議論に基づいて「何が真に正しいことか」などの価値基準について絶えず議論することが不可欠であり，議論に参加する人が，価値基準の客観的実在を信じていることが重要であることを指摘している[1]．

さらに，このような議論が行われるためには，人々が制限を受けることなく思想や主張を表明できる言論の自由が保障されなければならない．ミルは，思想と言論の自由を法律や制度によって形式的に保障するだけでなく，主流派以外の人々の意見が複数存在して公正に論争しあう状態を保つことで，世論の多数派による専制を抑止し，意見の多様性による社会の発展が期待されると主張した[2]．弁証法的議論においては，異なる意見を持つ者同士が制約を受けることなく意見を表明できることが非常に重要である．それを保障する言論の自由があればこそ，あらゆる立場にある人々から構成される社会の真の改善が期待されるのである．

このように，土木計画や公共政策においては，客観的な真善美の実在を想定した，謙虚で，異なる意見を持った人々が，言論の自由を保障された状況で弁証法的議論を行うことが求められ，その最上位の目的は「社会の漸次的改善」であると言える．そして現代において，このような言論の自由を侵害して弁証法的議論を阻害し，しばしば全体主義と結びつけられることのある[3]概念として「ポリティカル・コレクトネス（ポリコレ，PC）」が挙げられる．以下，この概念について説明する．

近年，政治の分野やインターネット上において，「ポリティカル・コレクトネス（Political Correctness，政治的正しさ）」という言葉が世界的に注目を集めている．日本では2016年の米国大統領選挙を機に，「ポリコレ」という略称とともに人々の間に浸透するようになった．

ブリタニカ国際大百科事典によれば，ポリティカル・コレクトネス（以下，PCと略記）とは「他者に対し，とりわけ人種，性別，性的志向，国籍，宗教，年齢，身体障害等への配慮と寛容さを示す考え方」[4]のことである．現在の日本では主に，特定の人々に対する差別や偏見を排除するための言葉の言い換えや表現規制として理解されており，しばしば，平等という「正義」を振りかざし他人を攻撃する反差別主義者を非難する際に皮肉として用いられている．

しかし2.でも述べるように，PCという語の用法や使われる文脈は多岐にわたり，差別に限らず様々な社会問題を論じる際に使用されている．例えば，禁煙による健康や社会への影響を科学的知見に基づいて慎重に検討することなく，「タバコ＝悪」に仕立て上げ，一方的に禁煙制度を導入しようとする禁煙派の強引な議論の仕方がPCという言葉で批判されることがある[5][6]．またPCは環境保護主義に対して用いられることもあり[7]，環境保護主義の延長として，原発問題もPCと結びつけることができるであろう[8]．実際に，原子力の維持や東京電力を少しでも弁護したりするような発言が激しい批判の対象となってネット上で炎上したり，国営テレビに出演を依頼されたエネルギー問題研究家が原発推進を表明しただけで，直前になって番組から降板されるといった事態が生じている[9]．また，PCとの関係を直接論じたものは筆者の知る限り存在しないものの，新型コロナウイルス流行時における自粛・マスク警察の横行も，「命は何より重い」という正義をふりかざし他者を非難するPC的現象であるといえるのではないだろうか．

以上のようにPCは，正義を振り回して他人の言動を非難するものとして理解されており，自分の正義を押し付けるために他人を殴る棍棒としてPCを揶揄する「ポリコレ棒」[10]という言葉も存在する．

このように，PCをめぐる言説は非常に広範にわたる．そしてPCの横行によって言論・表現の自由が失われ，「正しさとは何か」についての弁証法に基づいた健全な議論が行われないまま，PC的主張が政策決定に影響を与え，場合によっては公益を大きく損ずる可能性が危惧される．さらに，PC的言説が広く行き渡ったとき，それに対する反発が噴出し，トランプ政権誕生やBrexitなど，既存の社会秩序が崩壊する危険性も考えられる[11]．

だが，PCという概念そのものの定義が曖昧であり，それが他のどのような心理的特性とどのような点で類似し，どのような点で異なるのか明らかにされていないのが現状であるため，現在PCが世間においてどの程度広がっているのか，また過剰なPCの蔓延によって現実にどのような弊害がもたらされるのかを，客観的な基準に基づいて議論することが困難である．したがって，日本におけるPCの現状を整理し把握するための足掛かりとして，PCに関する実証研究が必要であるといえる．

以上のような問題意識に基づいて，本研究では，PCの概念を明確化したうえで，PC的心理の基本的特徴を理解するために，PC的傾向と諸々の個人属性・心的性質との関係を調査することを通して，「どのような人にPC的傾向があるのか」を実証的に検証することを目的とする．このような検証により，公共政策における弁証法的議論を阻害する恐れのあるPCという社会現象を的確に理解し，その危険性への認識を高め，公益を損ずるような政策決定が行われることを未然に防ぐという上位目標に寄与しうると考えられる．

2. 既往研究と本研究の位置づけ

本研究では，PCの概念を明確化し，PC的傾向とそれに関係する諸々の個人属性と心的性質を検討することを目的としているが，検証する仮説を設定するために，これまでPCについてどのような議論や研究が蓄積されてきたかを，本章にて概観する．

(1) PCとは何か

PCは論者によってその定義が異なり，また用いられる文脈も多岐にわたる．本節では，既往研究に基づいてPCの定義やその基本的性質を整理することとする．

a) PCの語史

Perry[12]によれば，PCは元来，1960年代に勃興したフェミニズムや公民権運動といった「新左翼（新しい社会運動）」が，スターリンや毛沢東を崇拝する厳格な共産主義者を批判する際に皮肉として用いた言葉であったという．1990年代には，米国において保守派が，大学におけるリベラル教育や積極的是正措置を批判する際に，PCという言葉を使い始めた．

このように，批判対象を批判するという文脈で活用され始めたのがPCという概念だったのだが，ここで注意が必要なのは，PCは使用者や使われる時代によって，それが指し示す対象が異なることであり，差別や偏見に反対する運動や言説だけを表すわけではないことである．つまりPCとはかなり射程の広い概念であり，実際，PCという言葉が使われた場面を見ていくと，「環境保護運動」や「資本主義是正」，「軍国主義批判」など，様々な文脈で用いられていることが分かる[12]．

b) PCの定義

上に述べたように，PCという言葉の示す対象は広範にわたり，論者によって様々に定義されている．以下，いくつかの定義を挙げる．

politically correct conforming or adhering to what is regarded as orthodox liberal opinion on matters of sexuality, race, etc.: usually used

disparagingly to connote dogmatism, excessive sensitivity to minority causes, etc. (Webster’s New World College Dictionary, Fourth Edition)
「性，人種等に関して正統的で進歩的と考えられている意見に合わせる:通常，教条主義や少数民族等の主義主張に敏感すぎることに対する非難語として使われる」[13)]

“Political Correctness” is a label slapped on an enormous range of liberal views – from environmentalism to multiculturalism to abortion rights(Wilson, 1995)
「“ポリティカル・コレクトネス”は，環境保護主義から多文化主義，中絶の権利といったリベラルな思想全般に貼られるレッテルである」[14)]

It is, rather, the way in which (conservatives allege) liberals and radicals hold and act on their beliefs: namely, narrowly, dogmatically, unfairly, intolerantly, self-righteously, and oppressively(Cummings, 2001)
「それはむしろ，（保守派が主張するような）リベラルやラジカルが信条を主張する方法：すなわち，偏狭で，教条主義的で，不公正で，不寛容で，独善的で，抑圧的な方法のことである」[7)]

人種，性別，職業，身体的特徴など，他人と自分を区別できるあらゆる範疇において，マイノリティに属する者の感情を害したり不利益を被るような言葉や表現を政治的・社会的実践レベルで是正する際の規準(藤田, 2008)[15)]

上３つの定義および批判対象を批判する文脈で使われ始めたことより，PCとは，1)主にリベラルな価値観に適用されるが，特定の思想・主義そのものを指す言葉ではなく，2)自らの意見を絶対視し，反対意見を封殺するような偏狭な主張方法に対して批判的に用いられる言葉である，と言うことができる．ただし，元来批判的な用語であったPCが，その後藤田のような中立的な定義でも用いられ，その意味でのPCを肯定する論調が存在することには注意する必要がある[12)]．またPC的主張（反差別，環境保護，生命至上）に反する発言をすると強い道徳的非難を受ける恐れがある[11)]．これらの主張は，一見誰も反対できないような正しさを持つように思えるが，あくまで時世上正しいとされているに過ぎず，いついかなる時にも正当であることは保証されていない．実際，女性差別や人種差別，環境破壊といった問題が大きく取り上げられるようになったのは，1960年代以降の“新しい社会運動”の盛り上がり以降である．そしてNigelは，PC推進派は確かに存在するが，自嘲のとき以外ではPCという言葉を使わないであろうと指摘する[16)]．

このようにPCという語には様々な用法があるが，PCとは基本的に否定的な概念であるといえる．本研究では以上のような議論を踏まえ，PCを
「“原則的には必ずしも正しくはないが，時世上は正当である”と社会的に認識されている，他人に押し付けることを前提として用いられる価値規準」
と定義する．

c) PC概念の基本的性質

前項までに記したように，そもそもPCは，相手に対する非難語として生まれたものであり，基本的には否定的な概念である．Perryは，PC登場の背景にはブラック・パワー運動やフェミニズムといった“新しい社会運動”の盛り上がりがあり，PCという語句を使用するグループはみな新しくできたばかりで，旧い体制のドグマや教説に対する不信感をもつものたちであったと指摘する[12)]．つまりPCは「うそをつくな」，「人を殺すことなかれ」といった普遍的な道徳を訴えるものではなく，社会の変化に応じ，旧来の価値観の否定として立ち現れる現代的な現象であるといえるのである．

またPerryは，PCは何よりもまずリベラルが，偏狭で反自由主義的で非人道的な方法で信条を主張するようになったことに対する皮肉として発生したことを指摘しており[12)]，CummingsはPCの特徴として，

1)独善的であり，自らの主張を絶対的正義とみなし教義を無批判に盲従する教条主義であること
2)PC主張者は不寛容であり，異論や他の事柄を排除しようとする偏狭さがあること
3)特定の政治イデオロギーだけでなく，あらゆる主義主張に適用されること

を指摘している[7)]．つまりPCとは，特定の主義・思想の内容そのものではなく，その主義・思想を絶対的な正義とみなし，異論を徹底的に排除することで相手に押し付けようとする姿勢のことを指すのである．

以上より，PCの概念の基本的性質を整理すれば，

①“新しい社会運動”として出現した「現代的な現象」である
②旧来の価値観に対する不満・不信感をもつ
③独善的・教条主義的で，自らの主張を「絶対的正義」とみなしている
④異論や反対者に対して「偏狭・不寛容」である

という4点にまとめることができる．

(2) PCがもたらす弊害

何度も繰り返すように，PCは否定的な概念として発生し，その蔓延が社会に悪影響を及ぼす可能性が指摘されてきた．本節では，どのような論点からPCは批判の対象とされてきたのかを概説する．

PC批判の中で最も代表的なものが，「表現・言論の自由の侵害」である．藤田は，PC的主張に反する不適

切な表現をしたものに“差別主義者”などのレッテルを張り，言葉狩りの形で健全な言論活動を抑圧することで，自由社会で保障される権利の擁護を目的としたPCが，表現の自由をも侵害するという自己矛盾に陥っていることを指摘している[15]．また，平等を至上命題とするPCによる，道徳的に問題があるとみなされる言葉の言い換えが，ジョージ・オーウェルの小説『1984年』で描かれた全体主義的な言語統制に見立てて批判されており，自然言語の持つ表現力や伝達力が失われることで人間本来の言語活動が阻害される危険性が指摘されている[16]．

また，言論の自由の侵害に伴う「学問の自由の侵害」も問題点として指摘されている．その主な内容は，言論弾圧が教育・学問の分野にまで及ぶことで，普遍的真理の探求に必要な学問の自由が奪われる，といったものである．Woodwardは，マイノリティに過剰に配慮するPCの帰結として，1)大学全体の学力低下，2)社会的弱者に関する学問分野が過剰に保護されて神聖化し，学問の発展に必要な批判の可能性から疎外されること，3)学内での討論が政治的な「洗脳」と化すこと，を指摘している[12]．またMorriesは，社会科学者が“差別主義者”などの不当なレッテル張りを恐れて自身の研究内容や話の内容を改竄する可能性があることを理論的に示した[17]．これは，自身の名誉に強い関心を持つ教授などの社会的上位層が自身の保身のためにPC的言説に迎合し，権力闘争のために学問を歪曲する可能性を示唆している．さらにLilienfeldは，心理学や精神病理学といった行動科学の分野において，人種や性別による知能などの生得的な差異の存在を示唆するような研究は，「政治的正しさ」を理由に学術界から排除されることを指摘している[18]．

さらに，PCによる「問題の根本原因の放置」も，批判の対象となる．あらゆる問題解決には「差別」，「環境」，「人権」とはそもそも何か，どのように解決するべきかなどについて絶えず議論し続けることが不可欠であるが，藤田は，PCによって問題そのものについて語るという本質的事象までをも言論弾圧によって阻止してしまう危険性があると指摘している[15]．

以上の研究においては，PCが主に「差別的な言動を是正するための規準」の意味で用いられているものの，PCによって言論・表現の自由が失われるだけでなく，現実に起きている問題を潜在化して解決を阻害するといった弊害をもたらすことが論じられている．

(3) PC現象・心理に関する定量的研究

主に米国において，その絶対数は少ないものの，PC現象やPC的心理を定量的に測定することを試みる研究がいくつか存在する．

Lalonde & Doanは，“PC”という言葉に人々がどのようなステレオタイプを持っているのかを測定する尺度を作成し[19]，ジェンダー観や右翼権威主義的態度，言論の自由の用語や平等実現のための優遇措置への評価と関係があることを実証的に明らかにした[19]．“PC”という言葉に対する人々のイメージに基づいて，社会的弱者への態度とPCの関係を分析することは，PCを概念化して考察する上で非常に意義があるが，Lalondeの研究では個人のPC的心理については測定できているとは言えない．

BrummettはBrittanによって作成された，人種・男女平等に関する“政治的に正しい”態度をどれだけ有するかを測定する尺度[20) 21]を使用している[22]．この尺度は個人におけるPC的態度の測定を試みているものの，他人から好意的に見られようとする傾向（社会的望ましさ）を測定している可能性が高いことが指摘されており[23]，(1)で示した偏狭さ・不寛容さといったPCの特徴を測定できるとは言えない．

Strauts & Blantonは，PCを「特定のグループへの否定的な見方や偏見をもたらす可能性のある単語や語法を制限する暗黙の社会的習慣」と定義し，“政治的に正しい”言論への関心度を測定する尺度を開発し[24]，差別的言動に対する怒りや不快感といった否定的な感情的反応は日々の生活でのストレスの感じやすさと正の相関が，他人の差別的言動への注意・非難といった行動的側面は日常会話における対立の頻度と失う友人の数と正の相関がみられることが示されている[24]．

以上の研究は，定義が曖昧なPCを，“PC”という言葉に対するイメージやPC的言語への反応などの側面から定量的に測定することを試みているという点では非常に意義があるが，これらはいずれもPCを「差別や偏見を排除するための言動是正」の意味で用いているため，PCの一般的性質を検討するには尺度の適応範囲が極めて限定的である．さらに質問項目に“PC(Political Correctness)”という語句がそのまま登場するので，PCに馴染みのない人々を対象にした調査に用いるには適していない．そして何より，PCを定量的に測定する試みはその絶対数が少なく，知見が限られている状況にある．

(4) 本研究の位置づけ

上記のように，既往研究ではPCの特徴や問題点の事例記述的・経験的な指摘や，絶対数は限られるがPCの定量的測定を試みる研究も一定程度存在する．

しかしながら，PCが「差別問題解決のための言動是正」だけでなく，「“時世上正当であると社会的に認知されている価値観”の主張方法に対する非難用語」であると考えた場合，(1)で述べたようなPCの一般的性質について系統的に分析した研究は十分になされているとは言えないのが現状である．また，PCが誕生した米国ではPCに関して様々な観点からの議論や研究が蓄積されているが，日本においては，筆者の知る限りPCを実証

的に扱った研究は存在しない．しかし，近年ネット界隈を中心に「炎上」を通じて国内でPCへの関心が高まっていることは明らかであるため，今後も社会問題として取り上げられるであろうPCが，日本においてどのように広がっているかを理解することは極めて重要である．

本研究では，PCの基本的な特徴について把握することを目的とし，我が国日本で発生している様々なPC的現象を対象として，個人のPC的傾向と諸々の個人属性や心的性質がどのような関係にあるのか，また世論形成に対してどの程度の影響力を持っているのかを実証的に検証する．現在日本では，PCが世論形成や炎上現象に及ぼす影響について定性的な議論がなされているが，その影響が定量的にはどの程度なのかについての事象知見や，PC的傾向がどのような要因に影響を受けているのかについて知見を得ることは，PCという概念を用いた社会批評ならびにそれを通した適正な世論形成の在り方を考えるうえでの基礎的な情報になりうると考えられる．そもそもPCは「原則的には必ずしも正しくはない」命題を社会的に強要しようとするものである以上，その影響力が強いことは世論が「正しくない」方向へと誘導される危険性を拡大させるものだからである．そうした危険性を回避するために一体いかなる取り組みが必要なのかを考える基礎知見を得ることが本研究の目的である．

3. 研究手法

(1) 理論仮説

本研究では，上記の目的のもと，PC的傾向と諸々の個人属性や心理的性質との関係について，以下の理論仮説を措定した．

a) 社会的上位層と論理的・抽象的思考

仮説1-1　論理・抽象性を志向する人ほど，PC的傾向がある

仮説1-2　高学歴・高収入といった社会的上位層ほど，PC的傾向がある

米国において PC が極端に見られるのは左派の比較的少数の作家，芸術家，学生，知識人や，都市に拠点を置くコスモポリタンなエリート・メディアであるという指摘[11]や，PC が上流階級や知識階級の指標のひとつとみなされているという指摘がなされている[3]．

また，PCは独善的で教条主義的であることが特徴である．ここで教条主義とは，理論や教説に述べられている命題や原理を絶対的なものと考え，当面する状況や具体的な諸条件を吟味せず機械的に適用する，原理主義的な態度のことである[25]．つまりPCは，様々な事例の背後にある個別の事情を汲むことなく，「平等」や「人権」といった抽象的な理想をあらゆる場面に適用しようとする態度であると言える．

これらより，既得権や自己の優位性を保とうとする社会的上位層や，論理性や抽象性を志向し，過度に抽象的な概念を恣意的に活用できる知的エリートほどPC的傾向にあると推論され，これを仮説1-1, 1-2とする．

b) 大衆性とPC的傾向

仮説2　大衆性が高い人ほど，PC的傾向がある

2.(2)で述べた通り，PC主張者は自らを絶対的な正義だと盲従し，それが社会に反映されることを当然であると見なしており，旧来の価値観を破壊することを厭わない[12]．また，PCは個人の社会に対する責任意識を希薄化させる可能性がある[3][15]．

また藤井・羽鳥は，オルテガの『大衆の反逆』の記述に基づいて大衆性尺度を開発しており[26]，「傲慢性：ものの道理や背後関係はさておき，とにかく自分自身には様々な能力が備わっており，自分の望み通りに物事が進むであろうと妄信する傾向」と「自己閉塞性：世の中や伝統といった外部世界に対する無関心さや，外部世界との紐帯やその中での種々の責務を忌避する傾向」の２つの因子が得られている．

これらより，自分の価値観が絶対的な正義だと思い込み，それが社会に反映されるべきだと考える傲慢な人ほど，また自己閉塞性故に伝統的価値や社会，他者に対する敬意を持たない人ほど，PC的的傾向があることが推論される．よって仮説2を設定した．

c) 正当世界信念とPC的傾向

仮説3　正当世界信念が強い人ほど，PC的傾向がある

PC主張者には「正義の味方」であるという自負があり，他人の言動の監視によって差別心や偏見は消えていくという信念が見受けられるという指摘や[15][27]，PC的言説は既に世界は平等で公正な場所なのだという信念のもとで押し付けられることが示唆されている[12]．

また正当世界信念とは，正の投入には正の結果，負の投入には負の結果，つまり努力や善行・正義には成功や報酬が伴い，怠慢や劣等，不正義には失敗や刑罰が伴うと考える傾向である[28]．

正当世界信念は，不公正状況の否定的評価・非許容[28]，事件や事故における加害者の非人間化[29]，「善／悪」「正義／不正義」といった二分法的思考[30]との間に正の相関があることが指摘されている．

以上のことから，正当世界信念が強い人は，「差別」「環境破壊」「人権侵害」といった不正義は排除されなければならないと考え，そうした不正義をはたらく者を許容することができず，「正義／不正義」の二項対立に持ち込んで相手を糾弾することによって自己の世界観を維持しようとするのではないかと推論されるので，仮説

3を上記のように立てた.

d) 自己の価値規準の有無

仮説4　自分の価値規準を持たない人ほど，PC的傾向がある

PCは人々に社会的に望ましいとされる言動・規範に適合することを要求し，またPC的主張に反すると強い道徳的非難を受ける恐れがある[5) 11)]．つまり，反差別や環境保護といった時世上正当であるとされているPC的言説に同調し支持を表明している限り，他者や社会から糾弾される心配をしなくてもよいといえる.

また社会心理学の分野では，他者の意見に同調する行動に関して非常に多くの知見や理論が提出されており，特に他の成員が一致して自分とは異なる意見を主張するときに同調は生じやすいとされる[31)]．そして他者から受け入れられたいと思う人ほど，他者の判断規準を内面化し，自分の価値判断の規準として用いる傾向があることが示されている[32)].

以上より，自分の価値規準が希薄な人ほど，社会で時世上正しいとされているPC的言説を内面化し，権威主義的にそれに固執する傾向にあることが推論され，これを仮説4とする.

(2) 調査実施概要

本研究では，(1)で措定した仮説を検証するために，クロス・マーケティング社のインターネット調査サービスのモニターから10代，20代，30代，40代，50代，60代以上の男女各100名，1200名を抽出し，2021年1月15日から18日の期間内にWebによるアンケート調査を実施した.

(3) 調査項目

a) 個人属性

個人属性として，性別，年齢，居住地の規模，職業，最終学歴，世帯年収，結婚，子供の人数，各種メディア（テレビ，新聞，インターネット，ソーシャルメディア，ネット掲示板）の平日1日当たりの利用時間，喫煙状況の回答を依頼した.

b) PC的傾向に関する質問項目

2.でも言及した通り，PCは特定の思想・主義そのものを指すわけではなく，偏狭で独善的な信条の主張方法を指す．しかし，PCは単に不寛容で独善的な人間のことを指すのではなく，時世上ある程度社会的な支持を得ている価値観が，旧来の価値観を否定する形で姿を現す社会的現象であるといえる．したがって，PC的傾向を測定する際には，反差別や環境保護といった各PC的言説に対する態度として捉える必要があると考えられる.

このような観点から，本研究では，PC的現象といわれている事例，あるいはそうであると考えられる事例を8つ挙げ，それぞれについて⑴～⑸の項目を質問した（表3-1）．⑴は，PC主張者は絶対的正義を自負しているので，それに反する事象に「悪」のレッテルを貼っていることに対応している．実際Cummingsは，PCは曖昧さに不寛容で，注意を向けられる全てのこと・人を善悪に二分することであると指摘している[7)]．⑵は，PCはある程度社会的な支持を得た価値観であるため，PC主張者は自らの主張は個人的見解ではなく，社会全体にとっての正義だと認識していることに対応する質問文である．項目⑶，⑷，⑸はそれぞれ，前章(1)で整理したPCの基本的性質②，④，③に対応した質問文である.

また，調査に利用した事例は，既往研究においてPC的現象であるとされているものとして「女性差別」「外国人差別」「表現規制」「喫煙規制」「原発問題（環境保護）」を，言及されていないものの，定義や特徴からPC的現象であると考えられるものとして「コロナ禍におけるマスクの着用」「公共事業（ダムの建設事業）」「国の財政規律」を取り上げた．なお，「ダムの建設事業」について質問する際に使用した文章は羽鳥・梶原[33)]の研究で使用されたものである．具体的な質問項目については，補表3-1を参照されたい.

c) 仮説検証に用いる各種尺度

仮説1-1の検証には，抽象・論理性の志向に関わる9つの質問項目を作成し，使用した.

仮説2には藤井・羽鳥による大衆性尺度[26)]を，仮説3には今野・堀による正当世界尺度[28)]を使用した.

仮説4には，横田・中西による同調志向尺度[31)]から，自分の意見よりもグループの意見を重視する傾向を測定していると考えられる項目を抜粋，文言修正・加筆を行い，得点を逆転することで，自分の価値規準が明確である度合いを測定する尺度とした.

なお，全ての尺度において5件法での回答を要請した．各尺度の内容は，補表3-2を参照されたい.

表 3-1　PC 的傾向を測定するための質問項目

⑴	「〇〇はいけない」と思う	何かに「悪」のレッテルを貼っている
⑵	「〇〇はいけない」と、みんなも考えていると思う	社会全体の正義だと認識している
⑶	昔はともかく、今の時代では〇〇は許されないと思う	基本的性質②に対応
⑷	〇〇する人に、激しい怒りを感じる	基本的性質④に対応
⑸	「〇〇はいけない」に、例外は一切ない（PCを絶対善だと思っている）	基本的性質③に対応

4. 分析結果

(1) 基本分析の結果

a) 各種尺度の信頼性分析

本研究では，仮説検証のために各種尺度を用いているが，これらの信頼性を確認するためにクロンバックのα係数を算出した．その結果を，それぞれの基本統計量（平均値，標準偏差）と合わせて表4-1に示す．

表4-1 各尺度得点の基本統計量

尺度名	平均	標準偏差	α
論理・抽象志向性（5項目）	2.77	0.59	0.72
大衆性尺度（傲慢性，12項目）	2.57	0.48	0.74
大衆性尺度（自己閉塞性，7項目）	2.87	0.55	0.70
正当世界尺度（4項目）	2.56	0.63	0.60
自己の価値規準（11項目）	2.91	0.50	0.78

N=1200

まず論理・抽象志向性を測定する9項目に対して1因子解での因子分析を行い，因子負荷が<.40の4項目を削除した．残りの5項目に対して信頼性分析を行ったところα=.72となり，一定程度の信頼性が認められたため，加算平均をもって「論理・抽象性志向」の尺度を作成した．

傲慢性，自己閉塞性，自己の価値規準についてα>.70と一定程度の信頼性が得られた．正当世界尺度はα=.60であったが，今野・堀[28]によれば十分に信頼性の高い値であるため，いずれも加算平均により尺度を作成した．

また，各尺度間の相関係数を，表4-2に示す．

b) PC的傾向得点の作成

個人のPC的傾向の度合いを測定するために，補表3-2に示した8事例×5項目＝40項目について，「1:まったくそう思わない～5:とてもそう思う」の5件法で回答を要請した．まず加算平均によって「事例別のPC度：以下，“PC度（事例）”と記す場合もある」を算出し，8事例のPC度の加算平均を「総合PC度」の得点とした．

各PC度についても信頼性分析を行った．結果を基本統計量（平均値，標準偏差）と合わせて表4-3に示す．

表4-3 PC度の基本統計量

	平均	標準偏差	α
女性差別（5項目）	3.74	0.69	0.77
外国人差別（5項目）	3.53	0.78	0.83
表現規制（5項目）	3.36	0.88	0.89
喫煙規制（5項目）	2.86	1.00	0.90
マスク着用（5項目）	3.86	0.83	0.86
原発（5項目）	2.81	0.95	0.92
財政規律（5項目）	3.20	0.92	0.93
公共事業（5項目）	2.93	0.87	0.94
総合PC度（8事例）	3.28	0.57	0.82

N=1200

事例別のPC度については全てα>.75という良好な数値が得られ，また事例別のPC度を項目とした総合PC度の信頼性係数についてもα=.82が得られ，信頼性が認められたと考えられる．

また，事例別のPC度間の相関係数を表4-4に示す．

表4-2 各尺度間の相関係数

	論理・抽象性志向	大衆性（傲慢性）	大衆性（自己閉塞性）	正当世界尺度	自己の価値規準
論理・抽象性志向	1.00				
大衆性（傲慢性）	0.23**	1.00			
大衆性（自己閉塞性）	-0.19**	-0.01	1.00		
正当世界尺度	0.31**	0.20**	-0.16**	1.00	
自己の価値規準	-0.24**	0.09**	0.19**	-0.11**	1.00

N=1200 **: p<.01, *: p<.05, †: p<.10

表 4-4 事例別の PC 度の相関係数

	女性差別	外国人差別	表現規制	喫煙規制	マスク着用	原発	財政規律	公共事業
女性差別	1.00							
外国人差別	0.75**	1.00						
表現規制	0.56**	0.53**	1.00					
喫煙規制	0.20**	0.20**	0.35**	1.00				
マスク着用	0.40**	0.33**	0.42**	0.29**	1.00			
原発	0.26**	0.28**	0.37**	0.37**	0.28**	1.00		
財政規律	0.23**	0.17**	0.32**	0.29**	0.37**	0.45**	1.00	
公共事業	0.32**	0.30**	0.37**	0.34**	0.31**	0.53**	0.47**	1.00

N=1200 **: p<.01, *: p<.05, †: p<.10

(2) 仮説検証

a) PC的傾向と各種心理尺度との関係の分析

第3章で述べた理論仮説を検証するにあたり，はじめにPC的傾向の得点と各種尺度得点の相関分析を行った．結果を表4-5に示す．

「総合PC度」と各尺度の相関分析の結果，相関係数はそれぞれ論理・抽象性志向（r=.36, p<.01），傲慢性（r=.11, p<.01），自己閉塞性（r=-.19, p<.01），正当世界尺度（r=.23, p<.01），自己の価値規準（r=-.18, p<.01）となった．また，「事例別のPC度」と各尺度の相関分析の結果，全体として「論理・抽象性志向」「正当世界信念」「自己の価値規準」とは正の相関が，「自己閉塞性」とは負の相関がみられた．「傲慢性」については，事例によって正負両方の相関関係がみられた．

これらの結果は，仮説1-1, 仮説3, 仮説4を支持するものであった．つまり，論理性・抽象性を志向する人，正当世界信念が強い人，自己の価値規準が明確でなく周囲に同調しやすい人ほど，PC的傾向があることが示された．

ただし，「大衆性」に関しては必ずしも理論仮説と一致する結果ではなかった．「傲慢性」は事例によっては仮説を支持しない，または仮説と逆の結果が得られ，「自己閉塞性」は全体的に仮説と逆の結果となった．つまり，自己閉塞性の低い人ほどPC的傾向があることが示された．

b) 大衆性とPC的傾向の関係のさらなる分析

前項にて「大衆性」とPC的傾向との関係は，「傲慢性」と「自己閉塞性」によって異なることが示唆された．本項では，これらの関係についてさらなる分析を行う．

まず，「傲慢性」「自己閉塞性」ともに上位25%以上の得点を持つ者を「大衆人」，下位25%以下の得点を持つ者を「非大衆人」としたうえで，両者の間に総合PC度の差が存在するのかを，t検定によって分析した．次に，「傲慢性」「自己閉塞性」それぞれについて，上位25%以上の得点を持つ者と下位25%以下の得点を持つ者の2群に分けて，t検定によって総合PC度に差が存在するのかを分析した．結果を表4-6にまとめた．

いずれにおいても5%水準で有意差が認められた．これらより，「大衆人」は「非大衆人」に比べPC度が低いことが確認され，仮説2に反する結果となった．また，「傲慢な大衆人」はPC度が高く，「自己閉塞的な大衆人」はPC度が低いことが示された．

c) PC的傾向と個人属性との関係の分析

個人属性とPC度の関係を分析するにあたり，本調査で使用した個人属性の概要，記述統計量を補表4-1および補表4-2，補表4-3にまとめた．

まず，仮説1-2を検証するために，収入と学歴によってPC度に差が存在するのかについて，t検定及び分散分析を実行し，その結果を表4-7，表4-8にまとめた．学歴については「大卒以上」と「その他」に分け，収入については世帯収入が「300万円以下」を低収入，「300万円~800万円」を中収入，「800万円以上」高収入とした．これらより，収入によってPC度の差は認められなかった．また，学歴は，仮説に反して大卒以上の群のPC度の方が低いことが示された．

表 4-5　PC 度と各種心理尺度との相関係数

	総合PC度	女性差別	外国人差別	表現規制	喫煙規制	マスク着用	原発	財政規律	公共事業
論理・抽象性志向	0.36**	0.16**	0.18**	0.26**	0.23**	0.21**	0.29**	0.25**	0.29**
大衆性尺度（傲慢性）	0.11**	-0.05 †	-0.01	0.04	0.18**	-0.06*	0.16**	0.12**	0.14**
大衆性尺度（自己閉塞性）	-0.19**	-0.19**	-0.14**	-0.19**	-0.09**	-0.15**	-0.08**	-0.05†	-0.16**
正当世界尺度	0.23**	0.08**	0.12**	0.22**	0.19**	0.11**	0.19**	0.07*	0.19**
自己の価値規準	-0.18**	-0.12**	-0.15**	-0.15**	-0.08**	-0.21**	-0.04	-0.11**	-0.10**

N=1200　　**: p<.01, *: p<.05, †: p<.10

表 4-6　「傲慢性」「自己閉塞性」による，総合 PC 度の t 検定

	上位25%			下位25%			t	p
	N	平均	標準偏差	N	平均	標準偏差		
大衆性	73	3.16	0.56	96	3.42	0.66	-2.66	0.01**
傲慢性	383	3.34	0.55	338	3.20	0.64	2.99	0.00**
自己閉塞性	268	3.14	0.62	264	3.46	0.60	-6.05	0.00**

**: p<.01, *: p<.05, †: p<.10

表 4-7　学歴による総合 PC 度の t 検定

大卒以上			その他			t	p
N	平均	標準偏差	N	平均	標準偏差		
572	3.23	0.61	628	3.33	0.54	-2.96	0.00**

**: p<.01, *: p<.05, †: p<.10

表 4-8　収入による総合 PC 度の分散分析

	N	平均	標準偏差		平方和	自由度	平均平方	F値	p値
高収入	200	3.22	0.57	グループ間	0.64	2	0.32	0.99	0.37
中収入	524	3.29	0.58	グループ内	303.80	936	0.32		
低収入	215	3.28	0.56	合計	304.44	938			

**: p<.01, *: p<.05, †: p<.10

次に，事例別のPC度には「女性差別」「喫煙規制」が含まれていることから，性別と喫煙状況によってPC度に差が存在するのかを，t検定によって分析した．結果を補表4-9，補表4-10にまとめた．これらより，全ての事例において女性の方が男性よりPC度が高いことが示された．また，「女性差別が取り立てて男女差が大きいわけではなく，「表現規制」においてもっとも顕著な差がみられた．喫煙状況については前述の通り，「喫煙規制」において非常に顕著な差がみられた．さらに，「マスク着用」「財政規律」以外の事例でも，喫煙者のPC度の方が有意に低い，あるいは低い傾向が確認された．

d)　個人属性，各種尺度を説明変数とした重回帰分析

続いての分析として，補表4-1に記載の個人属性と，仮説検証で用いた心理尺度を独立変数，総合PC度を従属変数とした重回帰分析を，ステップワイズ法による変数選択を行ったうえで実行した．

ただし，収入は選択肢の間の値によって数値化し，「200万円以下」の人は100万円，「3000万円以上」の人は3000万円とした．また，「答えたくない」とした人は重回帰分析の対象から除外した．結果を表4-11に示す．

各種尺度については，前項まで述べてきたことと同様の結果が得られた．すなわち，「論理・抽象性志向」「正当世界信念」は正の回帰係数が，「自己閉塞性」「自己の価値規準」は負の回帰係数が算出された．ただし，「傲慢性」は，5%水準では有意とならなかったものの，10%水準では正の有意傾向がみられた．個人属性に関しては，「性別」「都市圏」「子供」「テレビ」「インターネット」「喫煙」で有意な回帰係数が得られた．つまり女性，都市圏に住んでいる人，子供がいる人，テレビの視聴時間が長い人，非喫煙者ほどPC度が高い傾向があり，インターネットの利用時間が長い人ほどPC度が低い傾向があることが示唆された．

表4-9　性別ごとのPC度のt検定

	男性(N=600)		女性(N=600)		t	p
	平均	標準偏差	平均	標準偏差		
女性差別	3.66	0.74	3.82	0.63	-4.05	0.00**
外国人差別	3.46	0.83	3.60	0.72	-3.32	0.00**
表現規制	3.14	0.93	3.58	0.75	-8.99	0.00**
喫煙規制	2.70	1.04	3.01	0.92	-5.48	0.00**
マスク着用	3.73	0.89	3.98	0.76	-5.15	0.00**
原発	2.63	1.03	3.00	0.83	-6.87	0.00**
財政規律	3.03	0.98	3.37	0.82	-6.50	0.00**
公共事業	2.76	0.92	3.09	0.79	-6.68	0.00**
総合PC度	3.14	0.59	3.43	0.51	-9.19	0.00**

**: p<.01, *: p<.05, †: p<.10

表4-10　喫煙状況ごとのPC度のt検定

	喫煙者(N=232)		非喫煙者(N=968)		t	p
	平均	標準偏差	平均	標準偏差		
女性差別	3.65	0.73	3.76	0.68	-2.14	0.03*
外国人差別	3.43	0.85	3.55	0.76	-1.98	0.05*
表現規制	3.25	0.88	3.39	0.87	-2.08	0.04*
喫煙規制	2.19	0.96	3.02	0.94	-11.95	0.00**
マスク着用	3.82	0.83	3.86	0.83	-0.73	0.46
原発	2.70	1.00	2.84	0.94	-1.99	0.05*
財政規律	3.11	0.92	3.22	0.92	-1.55	0.12
公共事業	2.83	0.88	2.95	0.87	-1.96	0.05†
総合PC度	3.12	0.58	3.32	0.56	-4.82	0.00**

**: p<.01, *: p<.05, †: p<.10

表 4-11　総合 PC 度を従属変数とした重回帰分析（ステップワイズ法）

	偏回帰係数	標準誤差	標準化偏回帰係数	t値	p値
定数項	2.74	0.18	-	15.15	0.00**
性別（男:1，女:0）	-0.19	0.03	-0.16	-5.45	0.00**
都市圏（都会:1，田舎:0）	0.07	0.03	0.06	1.97	0.05*
子供（いる:1，いない:0）	0.10	0.03	0.09	3.04	0.00**
テレビ（分/日）	0.00	0.00	0.13	4.20	0.00**
インターネット（分/日）	0.00	0.00	-0.09	-2.81	0.01**
喫煙（喫煙:1，非喫煙:0）	-0.13	0.04	-0.09	-3.11	0.00**
論理・抽象性志向	0.24	0.03	0.26	8.03	0.00**
大衆性尺度（傲慢性）	0.07	0.04	0.06	1.87	0.06†
大衆性尺度（自己閉塞性）	-0.07	0.03	-0.07	-2.45	0.01*
正当世界尺度	0.06	0.03	0.07	2.26	0.02*
自己の価値規準	-0.09	0.03	-0.08	-2.56	0.01*

N=939（収入の回答が「13：答えたくない」の人を削除）

R^2=0.231，自由度調整済みR^2=0.221

**: p<.01, *: p<.05, †: p<.10

(3)　総合考察

a)　各種心理尺度とPC度の関係について

以上の分析結果を踏まえ，PC的傾向と各種心理的特性との関係について考察する．まず，第3章で立てた仮説1-1，仮設3，仮説4は全て支持された．すなわち，「論理性を志向し，具体的文脈を無視し抽象的な原理原則に固執する人」「正当世界信念が強く世界は公平で安全な場所であると信じ込む人」「自分の価値規準（意見）を明確に持たず，他者の視線を気にする人」ほど，社会で時世上正しいとされている事象に対して教条主義的な態度をとる傾向があることが示唆された．

ただし，本研究では仮説2を明確に支持する結果は得られなかった．まず，総合PC度は傲慢性と正の相関がみられ，「傲慢にも自分の意見が世間に反映されるべきだと考える人ほどPC的傾向がみられる」という傲慢性に関する仮説を支持する結果が得られた．また，喫煙問題や原発問題や財政規律といった必ずしもPCという語句が発生した当時から存在していたわけではない事例についても傲慢性とPC度に正の相関がみられたものの，差別問題や表現規制といった伝統的な事例では有意な結果が得られず，マスク着用という最新の事例については，仮説と逆の結果が得られた．これは，発生した時期など，各PC的事例の性質によって傲慢性との関係が異なる可能性を示唆しているが，本調査では事例数が限られているため，今後の研究において他の事例を用いるなど改めて検証する必要があると考えられる．

また，「外部世界との紐帯や責務を忌避し，伝統的価値や社会，他者に対する敬意を持たない人ほどPC的傾向がみられる」という自己閉塞性に関する仮説は，分析全体を通してそれとは逆の結果が得られた．これは，自己閉塞性は「外部環境から自己を閉ざし，外部環境との紐帯やその中での種々の責務を忌避する傾向」であり，自己閉塞性の低い人ほど，世の中や社会問題に対して関心・責任意識が強く，PC事例に対しても強い関心を示し，時世上「悪」とされているもの（女性差別や喫煙など）を排除すべきだと考える傾向にあるためであると推論される．逆に，自己閉塞的な人は伝統的価値観や他者だけでなく，社会問題に対しても関心を抱かないので，PC的事例にそもそも積極的に関わろうとしないと言える．言い換えれば，社会や伝統などに過干渉になりすぎず，自分自身の世界観を重視する人ほど，PC的な「絶対正義」に陥らない傾向にあるともいえる．

つまり，大衆性概念において「自己閉塞性」は低減すべき概念とされているが，PC現象に関しては自己閉塞性を一定程度確保する必要があると言える．これらより，「傲慢で自己閉塞的な大衆人像」はPC的傾向と直接的な相関関係にあるのではなく，むしろ「傲慢で自己解放的な人物像」と関係があることが示唆される．つまり，「社会や伝統に過度な関心を示し，それらに自分の考えが当然反映されるべきである，と考える傲慢な人」ほどPC的正しさを振りかざすと言える．言い換えれば，「外的世界に過干渉にならずに自分の価値観を重視しつつ，他者に対して謙虚な人」ほど，PC的傾向は低いのである．

ここで自己閉塞性を高めることは傲慢性を高めることが明らかにされている[26]ことを踏まえると，自己閉塞性の軽減，すなわち自己の「解放」を図る事のみならず，その他の様々なアプローチで可能な限り傲慢さの低減を目指しつつも自己を過剰に解放する事を回避（すなわち，自己閉塞性を一定程度確保）する事ができれば，PCの過剰依存傾向を抑止すること（さらに言うなら，自分の価値観を保持し続けること）が可能となると期待できる．なお，傲慢さを抑止すると同時に自己閉塞性を一定程度確保する態度は，一般に「謙虚」と呼ばれる態度と解釈

することも可能であると考えられる．

以上の議論を踏まえれば，PC的傾向を低減し弁証法的議論が健全に行われるようにするには，「自分の価値規準を持ちつつも抽象的な論理や理屈に固執せず，謙虚であるような態度」を人々が持つことが必要であることが，本研究によって実証的に示唆されたと言える．

b) 個人属性とPC度の関係について

続いて，PC的傾向と諸々の個人属性との関係について考察する．t検定と重回帰分析の結果より，仮説1-2「高学歴・高収入といった社会的上位層ほど，PC的傾向にある」は必ずしも支持されなかった．PC論争が過熱する米国ではPCは知識人や富裕層にみられるとの指摘[3) 11)]に基づいて仮説を設定したが，日本においては必ずしも妥当しない可能性が示唆された．しかし表4-8の重回帰分析の結果より，都市圏に住んでいる（と少なくとも自覚している）人のほうがPC的傾向にあることが示唆され，これは「地方居住者の多くは，都市に拠点を置くコスモポリタンなエリート・メディアのPCのせいで伝統的な価値観が危機に瀕していると思い込んでいる」[11)]という指摘に一致しているといえる．したがって，今後の研究において，PC的傾向と居住地や地域愛着との関係性についてさらなる分析が必要であると言えるであろう．

仮説1-2のほかに，PC的傾向と個人属性の興味深い関係が示唆された．まず，男性よりも女性，子供がいないひとよりいる人，非喫煙者の方が，PC的傾向があることが明らかとなった．また，テレビやインターネットといったメディアの利用時間がPC的傾向に影響することも示唆された．

まず，テレビの視聴時間が長い人ほどPC度が高い傾向が認められた．これは，テレビ局は生存戦略上，時世上正しいと社会的に認知されており，違反すると激しい非難を受ける可能性のある「PC的きれいごと」に過剰に気を配り，PC的論調を報道する傾向にあることに起因する可能性が考えられる．

次に，インターネットとPCの関係について，既往研究では，ソーシャルメディア等の普及によって差別批判が「炎上」という娯楽と化してしまったこと[3)],たったひとつのコメントや出来事がインターネット上を飛び回り，ある事柄全体を象徴するようになること[11)]などがPCの広がりを推し進めたという指摘がなされているが，本調査ではインターネットの利用時間が増えるとかえってPC度は下がるという結果が得られた．これは先の指摘に反するように思われるが，ネット上では差別的発言といったPCに反する意見だけでなく，それに対する過剰なまでのバッシングも同時に「極端な意見」として目立つ．したがってインターネットを利用する人は，「PC的お題目」が一概に正しいとはいえないと感じ，判断を保留する傾向にあるのではないかと推論される．しかしながら本研究ではソーシャルメディアの利用時間も分析に入れているが，そちらは有意な結果は得られなかったことに注意が必要である．したがって今後の研究においては，各種メディアとPCの関係について，より詳細な調査をする必要があると考えられる．

これらに加え，「女性」「非喫煙者」のPC的傾向が高いことが示された．「女性差別」や「喫煙規制」など，これらの個人属性が直接的な影響を与えると考えられる事例以外においても同様の傾向が確認されたため，これらの関係性についても今後より詳細な研究が必要であると言える．

5. 結論

(1) 本研究のまとめ

本研究では，弁証法的議論を阻害し言論の自由を侵害する恐れがあり，近年社会的な関心を集める「ポリティカル・コレクトネス（PC）」の概念を明確にし，「“原則的には必ずしも正しくはないが，時世上は正当である”と社会的に認識されている，他人に押し付けることを前提として用いられる価値規準」と定義したうえで，その基本的特徴を把握することを目的として，個人のPC的傾向と諸々の個人属性及び心理的性質との関係を検討するためのアンケート調査を実施した．

その結果，PC的傾向と心理的性質との間には，

- 「論理性を志向し，具体的文脈を無視し抽象的な原理原則に固執する傾向（論理・抽象性志向）」
- 「傲慢にも自分の考えが社会に反映されるべきだと考える傾向（傲慢性）」
- 「正当世界信念が強く世界は公平で安全な場所であると信じ込む傾向（正当世界信念）」
- 「自分の価値規準（意見）を明確に持たず，他者の視線を気にする傾向」

と正の相関があり，

- 「外部世界との紐帯や責務を忌避する傾向（自己閉塞性）」

と負の相関があることが示された．

また，PC的傾向と個人属性との関係としては，「女性」「都市圏に住む人」「子持ち」「テレビを長時間視聴する人」「インターネットの利用時間が短い人」「非喫煙者」ほどPC的傾向があることが示された．また，既往研究での「社会的上位層ほどPC的傾向がある」という指摘については，本研究ではこれを支持する分析結果は得られなかった．

(2) 本研究による政策的示唆

本研究の分析結果を踏まえ，個人のPC的傾向を低減

し，弁証法的議論に基づく社会の漸次的改善を実現するために必要な政策的方略について考察する．

まず，4.(3)でも述べたように，PC的傾向を低減するには，「自分の価値規準を持ちつつも抽象的な論理や理屈に固執せず，謙虚であるような態度」を人々が持つことが必要であることが，実証的に示唆された．したがって，「傲慢性」の程度を下げつつ具体的思考，自己の価値規準を強化することが考えられる．

このための方策の一例として，人々の態度変容をもたらすための心理的方略のひとつである事実情報提供法が考えられる[1]．つまり，行き過ぎたPCによってむしろ現実の問題解決が阻害されている事実を伝えることが考えられる．具体的には，差別解消のための積極的是正措置がむしろ解決を阻害していること[34]や，環境への配慮を理由にした原発の全廃やダム建設など公共事業の削減がエネルギー供給の不安定化や災害時の脆弱性を高め，かえって公益を損じてしまうといった事実である．こうした事実を提供された人々は，自らが盲従していた「正しさ」の負の側面を認識することで自らの「正しさ」に懐疑的になるとともに，実際に個々の場面で起こっている実態に目を向けることで，「良き社会とは何か」について過度に抽象的な概念に陥ることなく，現実に即した議論を展開することが期待される．ただしもちろん，PCに頼る人々は事実情報を無視し，兎に角PCを「振り回す」傾向が高いため，こうした事実情報提供法が万人のPC的傾向を抑止することが可能であるとは考えにくいが，それでもPCを振り回すことの弊害についての情報を提示することは，PC的傾向を軽減させる効果を一定程度持つことが期待できる．

このように，「過剰な正義」に基づくPCが弊害をもたらすという事実を知ることは，正当世界信念を低減することにもつながると考えられる．正当世界信念は，正義や努力など正の投入には正の結果が伴い，不正義や怠慢など負の投入には負の結果が伴うと考える傾向であり，言い換えれば，「勧善懲悪」の構図を信じる程度である．したがって，PCがもたらす弊害に関する事実はPCという「正義」が必ずしもより良い社会の実現にはつながらないことを意味するため，このような情報を伝えることによって正当世界信念が低減され，個人のPC的傾向の低減につながると考えられるのである．

さらに，単に事実情報を提供するだけでなく，PC的論調に懐疑的な人間や差別・環境問題などPC事例の当事者の見解や価値観を共有し，議論する機会を設けることも有効であると考えられる．これにより，傲慢にも自らを「絶対的正義」とみなし異論を排除することが必ずしも正当ではなく，かえって弊害をもたらす恐れがあることへの自覚を促すだけでなく，様々な意見に触れることで「正しさ」とは何かを内省する機会を生み出し，自分自身で考えることを促すことで「自己の価値規準」の水準を高めることに寄与しうると考えられる．

ただし，「論理・抽象性志向」「正当世界信念」を低減することでPC的傾向が低減される可能性が示唆されたものの，単にこれを0に近づける方策をとればよい，とは言えないことに注意する必要がある．「論理・抽象性志向」については，具体的な文脈を無視し抽象的な原理原則に固執するのではなく，動態的で複雑な人間の生や社会の動きを，状況に応じて解釈できるような知性を身につけることが重要である．しかし，だからといって論理性・抽象性が全く不要なわけでは決してない．問題は，具体性と論理・抽象性を柔軟に組み合わせることなのである．「正当世界信念」についても，この信念は努力や善行に対する積極的な動機を維持することが指摘されている[28]．そのため，先に事実情報提供法によってこの信念の低減がPC的傾向の低減につながると述べたが，この信念を際限なく低減してしまえば，社会から活力が失われ，自由闊達な議論そのものが円滑に行われなくなる危険性をはらんでいるといえる．したがって，論理・抽象性志向と正当世界信念を適切な程度に抑えるためには，より慎重な検討を重ねる必要がある．

以上のような方策を実施することで，「論理・抽象性志向」「傲慢性」の低減や「自己の価値規準」の強化などを通じてPC的傾向を低減できる可能性が，本研究より示唆されたと言える．

(3) 今後の課題

ただし，本研究にはいくつかの限界も存在する．

まず，本研究ではPC的傾向を測定する質問項目を既往研究の指摘に基づき作成したが，これが「過度な」正義感を厳密に測定できているか否かについて，一定の留保が必要であろうことが挙げられる．⑸の「例外はない」という項目は過度な正義感を意味するが，それ以外の項目については単純に正義感を測定している側面が強い．仮説検証で用いた各種心理尺度についても，先に「論理・抽象性志向」「正当世界信念」は適度な水準を維持する必要があることを指摘したが，今回の研究デザインでは何をもって「適度」とするかを議論することは困難である．したがって今後は，どこまでが「適度な」正義感でどこからが「過剰な」正義感なのか，また「適度な」心理傾向の範囲はどこかを明確化できるような研究が必要である．

次に，PC的傾向には，本心から反差別や環境保護を訴える者がいる一方で，職業柄あるいは社会的立場から「タテマエ」としてPCに則った言動をとる者がいることも十二分に考えられる．Nigelは，PCは差別是正よりも「リップ・サービス」を奨励し，口先ではPC的言説を唱えるものの，本心では真逆の考えを抱く者が現れる

と指摘している[16]．実際，2.(2)で述べたように，自らの地位や名誉を守るために学者が研究内容をPC的言説に沿うようなものに意図的に改竄するといった事態も存在する．本研究における調査では，必ずしも「本音」と「タテマエ」の両者を区別しているとは言えず，本研究の限界を示している．

さらに，PCという言葉で表される現象は多岐にわたり，本研究ではその一端を事例として挙げたに過ぎなi ため，今後の研究においては本研究で取り上げなかった事例についても調査することが必要である．また4.(3)でも述べたように，居住地や地域愛着，各種メディアとPC度の関係のより詳細な研究が必要である．

これらに加え，本研究では個人のPC的心理について実証的に検証したが，PCには個人の心理的側面だけではなく，社会全体の運動として立ち現れるといった側面も存在する．PC現象の発生メカニズムや歴史的展開については政治学や社会学の分野で研究がなされているが，これらについて本研究では第2章にて若干の言及をしたに過ぎない．したがって，PCを個人の心理的側面としてだけでなく，社会現象としてとらえ，PC現象がどのように人々に波及し，弊害をもたらすのかを実証的に検証することが，今後の研究において求められるであろう．

付録

補表3-1　仮説検証に用いた各種尺度

【論理・抽象志向性尺度】

1. ある「考え方」が正しいかどうかは、時と場合で変わる*
2. 「モノの世界」には「法則」はあるが、「心の世界」にはそんな「法則」なんてない*
3. どんな立派な「理屈」でも、役に立たないときはある*
4. この社会には、どんな状況にでも適用できる「素晴らしい理屈」がある
5. あらゆる問題解決には、兎に角「論理」や「理屈」が必要だ
6. 「理想」と「現実」は、ハッキリと分けられる
7. どんなに複雑に見える問題でも、「公式」や「定石」をうまく使えば解決できる
8. 問題を解決するには、「具体的」に考えるより「抽象的」に考えるほうが重要だ
9. 徹底して論理的に考えれば、物事の良し悪しをはっきり決められる

【大衆性尺度】

1. 自分を拘束するのは自分だけだと思う
2. 自分の意見が誤っていることなどない、と思う
3. 私は、どんな時でも勝ち続けるのではないか、と何となく思う
4. 自分個人の”好み”が社会に反映されるべきだと思う
5. どんな時も自分を信じて、他人の言葉などに耳を貸すべきではない、と思う
6. “ものの道理”には、あまり興味がない
7. 物事の背景にあることには、あまり興味がない
8. 日本が将来なくなる可能性は、皆無ではないと思う*
9. 世の中の問題は、技術ですべて解決できると思う
10. 人は人、自分は自分、だと思う
11. 自分のことを、自分以外のものに委ねることは一切許されないことだと思う
12. 道徳や倫理などというものから、自由に生きていきたいと思う
13. 伝統的な事柄に対して敬意と配慮を持っている*
14. 日々の日常生活は、感謝すべき対象で満たされている*
15. 世の中は驚きに満ちていると感じる*
16. 我々には、伝統を受け継ぎ、改良を加え、伝承していく義務があると思う*
17. 自分自身への要求が多いほうだ*
18. もしも奉仕すべき対象がなくなれば、生きている意味がなくなるのではないかと思う*
19. 自分は進んで義務や困難を負う方だ*

【正当世界尺度】

1. この世の中では、悪いことをしたものは必ずその報いをうける
2. この世の中では、悪いことや間違ったことをしても見逃される人が数多くいる*
3. この世の中では、努力はいつか報われるようになっている
4. この世の中では、努力や実力が報われない人が数多くいる*

【自己の価値基準の有無】

1. 私は、自分自身よりも、グループの基準に従いがちである
2. しばしば、自分の判断の正しさに確信が持てなくなり、周囲の意見を参考にすることがある
3. 相手によって自分の態度や意見をすぐ変えるほうだ
4. 周りの考えがどうであろうと、自分の考えを押し通すほうだ*
5. 友人と一緒に何かするときには、たいてい友人のほうが物事を決める
6. 誰かの意見に非常に説得力があるなら、私は自分の意見を変えて、その人と協力する
7. 自分の意見が他者と一致すると、とても安心する
8. グループに従うくらいなら、むしろ独立したほうがよ

い*

9. 選挙など、政治的な判断をする際には周囲の意見に影響を受ける
10. 私は、すぐに重要な決定をしなければならないとき、自分の判断の正しさを確認するために他人の行動を参考にする
11. グループでまとまった意見は個人の意見よりも正しいことが多い

（＊逆転項目）

注）それぞれの項目について，5件法で測定

注）「論理・抽象性志向」は，1. 2. 3. 6. を削除して尺度を作成

補表3-2　PC的傾向の質問項目

【女性差別】

⑴女性差別はいけないことである.

⑵「女性差別はいけないことだ」と、みんなも考えていると思う.

⑶女性を差別することは、時代遅れだと思う.

⑷女性差別をするような人に、激しい怒りを感じる.（Twitterやネット掲示板への書き込みを含む）

⑸女性差別をしても許されるような場面なんて、絶対ない.

【外国人差別（人種差別）】

⑴外国人差別はいけないことである.

⑵「外国人差別はいけないことだ」と、みんなも考えていると思う.

⑶昔はどうだか知らないが、兎に角今は、外国人差別なんてあり得ない．時代錯誤だ.

⑷外国人差別をするような人に、激しい怒りを感じる.（Twitterやネット掲示板への書き込みを含む）

⑸外国人差別をしても許されるような場面なんて、絶対ない.

【性・暴力表現の規制】

⑴女性や青少年に配慮して、性表現・暴力表現を規制すべきだ.

⑵「性表現・暴力表現を規制するべきだ」と、みんなも考えていると思う.

⑶性や暴力を大っぴらに表現するなんて、時代錯誤も甚だしい.

⑷性表現・暴力表現を擁護するような人に、激しい怒りを感じる．（Twitterやネット掲示板への書き込みを含む）

⑸性表現・暴力表現をしても良いような公的な場面なんて、絶対ない.

【喫煙規制】

⑴禁煙を義務化するべきだ.

⑵「禁煙を義務化するべきだ」と、みんなも考えていると思う.

⑶昔はどうだか知らないが、とにかく今は、禁煙の義務化が必要だ.

⑷タバコを吸っている人に、激しい怒りを感じる.（Twitterやネット掲示板への書き込みを含む）

⑸タバコを吸うことが許されるような場面なんて、絶対ない.

【コロナ禍におけるマスクの着用】

⑴新型コロナのような感染症が流行してるとき、人前でマスクを着けるのは「当然」だ.

⑵「新型コロナのような感染症が流行してるとき、人前でマスクを着けるのは当然だ」と、みんなも考えていると思う.

⑶以前はどうだか知らないが、とにかく今はマスクをしないなんて絶対ダメだと思う.

⑷人前でマスクを着用しない人に、激しい怒りを感じる.（Twitterやネット掲示板への書き込みを含む）

⑸新型コロナのような感染症の流行時、人前でマスクをしなくても許されるような場面なんて，絶対ない.

【原発問題】

⑴原子力発電は即時、廃止すべきだ.

⑵「原子力発電は即時廃止すべきだ」と、みんなも考えていると思う.

⑶これまではどうだか知らないが、とにかくこれからは、原子力発電はダメだ.

⑷原子力発電を推進する人に、激しい怒りを感じる（Twitterやネット掲示板への書き込みを含む）

⑸原子力発電を進める事が許されることなんて、絶対あり得ない.

【国の財政規律】

⑴政府が借金を気にせずたくさんオカネを使うのは、とてもワルイことだ.

⑵「政府が借金を気にせずたくさんオカネを使うのはとてもワルイことだ」と、みんなも考えていると思う

⑶昔は知らないが、今のご時世、政府が借金を気にせずたくさんオカネを使うのが許されることなんて，あり得ない.

⑷政府が借金を気にせずたくさんオカネを使うことに対して、激しい怒りを感じる.

⑸「政府は、借金を気にせずたくさんオカネを使っていい」なんてことは、どんな時もあり得ない.

【自然を破壊する公共事業】

・以下のような公共事業（ダムの建設事業）に関する文について、どの程度そう思うか、あなた自身のお考えをお答えください.

ある希少生物が絶滅の危機に瀕しています．この生物の

生息する地域では、現在、ダムの建設事業が計画されています．このダムが建設されると、その生物種は永遠に絶滅することになります．

⑴自然を破壊するダム建設なんて、絶対進めてはダメだ．
⑵「自然を破壊するダム建設なんて、絶対進めてはダメだ」と、みんなも考えていると思う．
⑶昔はどうか知らないが、とにかく今は、自然を破壊するダム建設なんて絶対ダメだ．
⑷自然を破壊するダム建設に対して、激しい怒りを感じる．
⑸自然を破壊するダム建設が許される事なんて、絶対あり得ない．

注）それぞれの項目について、5件法で測定

補表 4-1　個人属性の記述統計

変数名	変数概要	変数の値	平均値	標準偏差	最大値	最小値
性別	男性かどうか	男性=1，女性=0	0.50	0.50	1.00	0.00
年齢	年齢	年齢	45.46	14.88	82.00	20.00
都市圏	出身地はどちらかといえば都会か田舎か	都会=1，田舎=0	0.40	0.49	1.00	0.00
職業	職業は○○かどうか	職業	度数分布を補表4-2に記載			
学歴	大卒以上かどうか	大卒以上=1，それ以外=0	0.48	0.50	1.00	0.00
収入	世帯収入	選択肢の間の数値	度数分布を補表4-3に記載			
結婚	結婚しているかどうか	既婚=1，未婚=0	0.54	0.50	1.00	0.00
子供	子供がいるかどうか	いる=1，いない=0	0.46	0.50	1.00	0.00
テレビ	平日にテレビを見る時間(分/日)	分	140.01	130.96	999.00	0.00
新聞	平日に新聞を読む時間(分/日)	分	10.23	22.42	500.00	0.00
インターネット	平日にインターネットをする時間(分/日)	分	142.01	136.53	900.00	0.00
ソーシャルメディア	平日にソーシャルメディアをする時間(分/日)	分	26.05	48.38	480.00	0.00
ネット掲示板	平日にネット掲示板をする時間(分/日)	分	7.07	30.82	700.00	0.00
喫煙	現在喫煙しているかどうか	喫煙=1，それ以外=0	0.19	0.40	1.00	0.00

N=1200

補表4-2　職業の度数分布

職業	度数	割合(%)
会社勤務（一般社員）	317	26.4
会社勤務（管理職）	53	4.4
会社経営（経営者・役員）	13	1.1
公務員・教職員・非営利団体職員	67	5.6
派遣社員・契約社員	68	5.7
自営業（商工サービス）	34	2.8
ＳＯＨＯ	15	1.3
農林漁業	3	0.3
専門職（弁護士・税理士等・医療関連）	29	2.4
パート・アルバイト	177	14.8
専業主婦・主夫	195	16.3
学生	41	3.4
無職	165	13.8
その他の職業	23	1.9
合計	1200	100

補表4-3　世帯収入の度数分布

	度数	割合(%)
200万円未満	105	8.8
200万～300万円未満	110	9.2
300万～400万円未満	134	11.2
400万～500万円未満	118	9.8
500万～600万円未満	124	10.3
600万～700万円未満	77	6.4
700万～800万円未満	71	5.9
800万～900万円未満	44	3.7
900万～1000万円未満	54	4.5
1000万～2000万円未満	91	7.6
2000万～3000万円未満	10	0.8
3000万円以上	1	0.1
答えたくない	261	21.8
合計	1200	100

参考文献

1) 藤井聡：土木計画学　公共選択の社会科学，学芸出版社，2018.
2) ジョン・スチュアート・ミル（斉藤悦則訳）：自由論，光文社古典新訳文庫，2012.
3) 綿野恵太：「差別はいけない」とみんないうけれど．，平凡社，2019.
4) ブリタニカ国際大百科事典　小項目電子辞書版，ブリタニカ　ジャパン，2013.
5) Hughes, Geoffrey: Political Correctness: A history of semantics and culture, Wiley-Blackwell, 2010.
6) 田中俊英：世界に，ポリコレ疲れという「幽霊」が出る，2017.
https://blogos.com/article/213928/（参照 2021-1-27）
7) Cummings, Michael S.: Beyond political correctness: Social transformation in the United States, Lynne Rienner Publishers, 2001.
8) 下条信輔：政治正義（ポリティカル・コレクトネス）がもたらす思考停止をどう脱するか，2014.
https://webronza.asahi.com/science/articles/2014073100002.html（参照 2021-1-27）
9) 東谷暁：「反原発」狂想曲　事故報道の虚と実，エネルギーフォーラム新書，2013.
10) 坂爪真吾：「許せない」がやめられない　SNS で蔓延する「#怒りの快楽」依存症，徳間書店，2020.
11) Fukuyama, Francis（山田文訳）：IDENTITY（アイデンティティ）　尊厳と欲求と憤りの政治，朝日新聞出版，2019.
12) Aufderheide, Patricia(ed.): Beyond PC: Toward a politics of understanding, Graywolf Press, 1992.（脇浜義明（編訳），アメリカの差別問題　PC(政治的正義)論争を踏まえて，明石書店，1995.）
13) Agnes, Michael(ed.): Webster's New World College Dictionary, Fourth Edition, Macmillan, 1999.
14) Wilson, John K.: The myth of political correctness, Duke University Press, 1995.
15) 藤田直也：ポリティカル・コレクトネスの社会・文化的要因，近畿大学英語研究会紀要，第 2 号，pp-51-60，2008.
16) Rees, Nigel: THE POLITICALLY CORRECT PHRASEBOOK, Bloomsbury, 1993.
（脇浜義明（訳），差別語・婉曲語を知る英語辞典，明石書店，1996.）
17) Morries, Stephen: Political Correctness, Journal of political Economy, 109(2), 231-265, 2001.
18) Lilienfeld, Scott O.: Can Psychology become a science?, Personality and individual differences 49(4), 281-288, 2010.
19) Lalonde, Richard N. & Doan, Lorraine A. Patterson: Political Correctness Beliefs, Threatened Identities, and Social Attitudes, Group Processes & Intergroup Relations, 3(3), 317-336, 2000.
20) Brittan-Powell C.: The development of a measure of political correctness ideology for racial issues, Cultural Diversity & Ethnic Minority Psychology, 2001.
21) Brittan-Powell C.: A measure of political correctness for gender issues, Poster session presented at the annual meeting of the American Psychological Association, Washington, DC, 2000.
22) Brummett, Bradley R.: Psychosocial well‐being and a multicultural personality disposition, Journal of Counseling & Development, 85(1), 73-81, 2007.
23) Dickson, Jubliee.: "What Did You Just Say?": Defining and Measuring Political Correctness, Doctoral dissertation, 2017.
24) Strauts, Erin & Hart Blanton; That's not funny: Instrument validation of the concern for political correctness scale, Personality and Individual Differences, 80, 32-40, 2015.
25) 新村出編：広辞苑，第 7 版，岩波書店，2018.
26) 藤井聡，羽鳥剛史：大衆社会の処方箋，北樹出版，2014.
27) 三本松政之，関井友子：ポリティカル・コレクトネス論争に関する研究ノート，人間科学研究，16，88-97，1994.
28) 今野裕之，堀洋道：正当世界信念が社会状況の不公正判断に及ぼす影響について，筑波大学心理学研究，20，157-162，1999.
29) 村山綾，三浦麻子：被害者非難と加害者の非人間化　2 種類の構成世界信念との関連，心理学研究，2015.
30) 白井美穂：厳罰傾向と公正世界観の理解へ向けて［2］尺度の検討，東洋大学大学院紀要，47，151-166，2010.
31) 横田晋大，中西大輔：同調志向尺度の作成　規範的影響と情報的影響，広島修大論集，51.2，23-36，2011.
32) 黒沢香：多数派への同調に対する自己意識と自尊心の影響，心理学研究，63.6，379-387，1993.
33) 羽鳥剛史，梶原一慶：公共事業における保護価値と受容意識に関する研究，土木学会論文集，D3（土木計画学），68(5)，231-239，2012.
34) Sowell, Thomas: Affirmative action around the world: An empirical study, Yale University Press, 2004.

(2021. 3. 7 受付)

Psychological Research on Polititial Correctness in Japan

Masato KATO, Yuichiro KAWABATA and Satoshi FUJII

In civil engineering planning and public policy, dialectical discussions need to be repeated under the condition that freedom of speech is guaranteed. However, "political correctness(PC)", the concept of social psychological phenomena, may hinder them. In this research, we define a PC as "a criterion of value that is socially recognized as not necessarily justified in principle, but as correct in the age, which is used to impose on others". In order to understand the basic characteristics of PC, we conducted a questionnaire survey.

As a result of the analysis, "people who prefer to logical and abstract thinking", "people who are contumelious and non-autistic", "people who have a strong belief in a just world", and "people who do not have their own thoughts" tend to impose PC on others. It was also suggested that people who graduate from university or above have lower "PC-score", and there was no difference in the "PC-score" depending on the income.